

Welcome ツバメ うちへおいでよ!

北区立東十条小学校
第4学年

① 研究した理由

私は、鳥が好きで、家でもユザクラインコを2羽飼っている。毎年初夏になると、ツバメのすを見かけることが楽しみで、我が家にもツバメがすを作りに来ることを待ちわびていた。でも、一度もツバメは来なかった。だから、ツバメのすがある家には、どんな特長があり、何回くらい同じ場所にすを作るのかを調べることにした。

② 予想

ツバメにとって、カラスやもうきん類は点てきななので、カラスやもうきん類があまりいない安全な場所で、なおかつ、えさとなる虫が多くなる公園の近くの家に、すを作るのではないかと考えた。

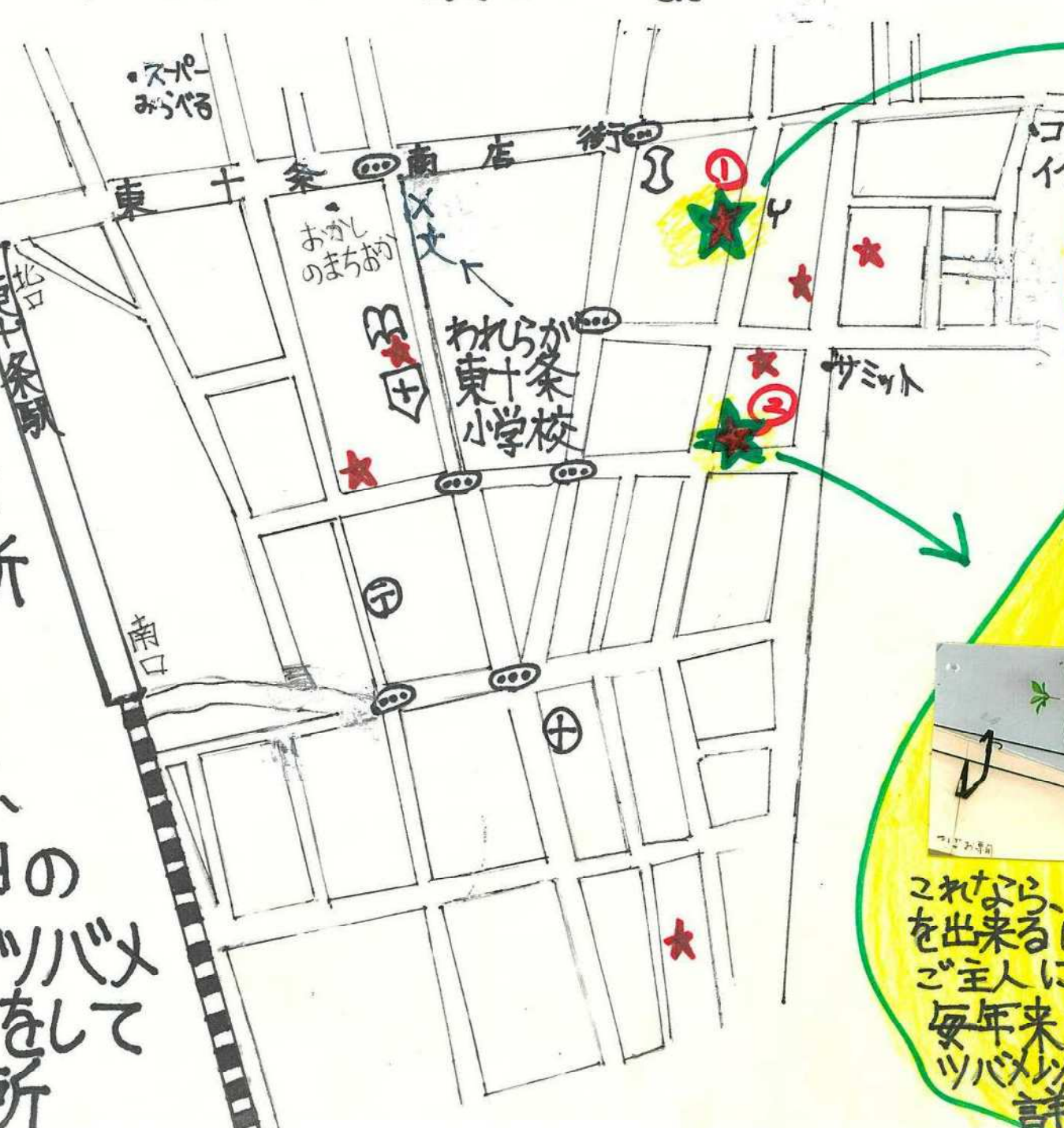
③ 調べ方

聞きこみをしながら、学区内を歩き、すを見つけたら、その土地の所有者にきかをとって、写真をとらせてもらったり、出来れば何年すを作っているのかなどを聞く。そして、私の家と比べる。

④ 結果

★マークは、今年ツバメが子育てをしたであろう場所

★マークは、7月23日の時点で、ツバメが子育てをしていた場所



これなら、ツバメも安心して子育てを出来るにちがいない。ご主人によると、ツバメは毎年来ているそうだ。ご主人はツバメ以外の鳥類にも詳しい。

① 虫をよけよう
② 銭湯のたき火

★②のちゅう車場では、5月に続き、今年2回目の子育て中だったが、私が発見した、7月23日の時点で、ヒナは、口ばしの黄色以外、まっ黒で小さかったので、1週間後にもう一度、すを見に行つた。すると、白と黒のもようがハッキリした



7月23日



7月30日

ヒナたちは、すの木横の台に飛びうって、す立ちの練習をしていた。1週間でこんなに成長するんだ、と感心していると、ある事に気がついた。ツバメが、すを作る場所は、日さしか多いが、必ず、かげになる場所、その日さし

自体に ^{かえ}返しがついていて、だれからも見つけにくいのだ。これは、ツバメのすがある建物と、私の家とを比べたものである。ツバメのヒナやたまごを守るには、私の家は、明るすぎるのだ。また、ツバメのすがある目の前の道路は、^{ひら}開けていて、電線がある場所だった。これも、ツバメにとっては、好都合なのだろう。親ツバメは、電線に上まってすを見守り、ヒナは、飛ぶ練習をしていた。私の家の前

ツバメのす



日さしに返しがある。



私の家

日さしに返しがない。日光が直せつたので、高温になる。

は、2m先に建物があり、電線など止まり木になる物は何もない。つまり私の家はツバメに選ばれる物件ではなかつたのである。



私の家の前



ツバメのすがある家の前

5 分かったこと

今回、ツバメの研究をするにあたり、私も図書館でツバメの生たいを調べていた。日本で子育てをするツバメは、フィリピンやベトナム、マレーシア、インドネシアなどから、2000km〜5000kmもの、きよりをあずか17cmの体で、力強く飛んで来る。また、す立ったツバメは、少しすの近くですごした後、あらかの川の上流にあるヨシ原に集団ねぐらを作る。集団ねぐらは、数百羽ほどの小さなものもあれば、10万羽ほどの大きなものもあり、秋になると、集団で南国にわたる。帰そう本能のあるツバメだが、実は、必ずしも同じつがいでもどつて来るわけではない事など、学んだのだが、★②のご主人は、当然のようにこれらの事を知っていた。

6 感想

私は、ツバメにすを作りに来てほしくて、この研究を始めたが、ツバメは、す作りの条件だけでなく、その家の人も見ているのではないかと思った。昔は、ツバメがす作りに来ると縁起が良いとされていたが、えい生面やアノ害から最近では、いやがる人も多くいる。その中でツバメが選ぶ家のご主人は、心からツバメとの共生を楽しんでいるように思えた。いつか私もツバメに選ばれたい。少し話は変わるが、学区内の地図を書くのに、縮尺比りつを計算した。これに一番時間がかかり、大変だった。日本地図を完成させた伊能ただたかは、すごいと思った。

7 参考文献 O BIRD FAN 日本野鳥の会 <https://www.birdfan.net>